



# つばさっ子

## 2012年 10月号



### 今月の行事



5日(金)午後	18:30~20:30	うさぎ懇談会
12日(金)午後	18:30~20:30	ぞう懇談会
18日(木)午後	18:30~20:30	きりん懇談会
19日(金)午前	10:00~	お誕生日会
20日(土)午前	9:30~11:30	第2回祖父母交流会
26日(金)		お弁当の日(全クラス)
27日(土)午前	9:00~11:00	ひよこ懇談会



### 26日(金)はお弁当の日



10月26日(金)は、お弁当の日です。各家庭でお弁当を作り、子どもに持たせてください。なぜ、そんな日があるかというと、年一回の給食室のメンテナンス日なのです。日頃から子どもたちや職員の給食を作る給食室は清潔にピカピカに保たれていますが、年に一度業者の手によって、さらにより美しい給食室にしてもらいます。ご協力の程、よろしくお祈りします。



### 児童数94名になります



10月から担任が変更します。ご了承ください。  
 4月は81名でスタートしましたが、半年で0歳児6名、1歳児3名、2歳児2名、3歳児1名、4歳児1名の途中入園児があり10月には94名になります。担任変更は以下の通りです。  
 ひよこ(上野・岡本・川崎・奥山)りす(川中・宮下・高木・北村)きりん(山本・渡辺)  
 新しい保護者、職員共々どうぞよろしくお祈り致します。





## 月が見えない初めてのお月見会

市原 悟子

初めての取り組みはいかがだったでしょうか？

あいにくお月さまの見えないお月見会だったのですがつばさの全世帯 69 世帯中 55 世帯参加で子ども 61 名・小学生 24 名・大人 77 名の総計 162 名がつばさホールに集いました。

200 人分のお寿司（6 升の米）、がめ煮、おだんごづくりはアトムからの職員、保護者会のイベント係りのお母さんたちが手伝ってくれました。準備しながらぼつり、ぼつりと交わす会話、こんな機会がないとクラスを超えたお母さんたちには接点がないし、会話を交わすこともないので貴重な機会だと思いました。

昼間激しく降った雨も上がり、谷野の司会で紙芝居の「はじまり～、はじまり～」最初は見入っていた子どもたちも徐々に内容が難しかったのか？ざわざわしました。0～5 歳までの幅広い年齢に合う紙芝居も難しい。1 時間は長かったかもわかりませんね。待ちに待った夕食の時間、どんなやり方がスムーズにいくか実行委員会では時間をとって議論したバイキング方式でしたがいかがでしたか？長蛇の列、席に着くまでには騒然とした雰囲気でしたが食べ始めると「おいしい」の声が聞こえ安心しました。

主な感想は「家族以外の人と夕食することなんてないので良い機会だった」

「紙芝居子どもには難しかったみたいだけど大人は楽しめた」「来年もしてほしい」との声が多く聞かれました。

来年への要望として「満月が見える日に設定してほしい」という声も届いています。

とにかく初めての取り組み、ケガ、事故なく終わって良かった！！という思い。来年取り組むとしたら、保護者会と共催でクラスの大人の出し物などで子どもたち、職員を楽しませてほしいと思いました。2 月の各クラス懇談会で来年度の行事への要望を聞きます。

その際には是非、参加して要望をお聞かせください。

ナニワのりちゃんによる紙しばい



お月見  
フォト



郷土料理マップ

たぬきとうさぎが来て  
だんごをお供え



宮下保育士と高木保育士による  
エプロンシアター



## 保育園は“学びの場”

仲嶺 真弓

保育園は子ども達が学び、成長する場であると共に、大人（保護者・職員）の学びの場でもあると私は思っています。“学び”と言っても、誰かが教えて学ばせるのではなく、自らの心で何を感じ、どう思い考えるかということが私の思う“学び”です。ですから、何を学びとするのかは1人1人形が違っていいのだと思います。

保育園を学びの場とする人は他にもいて、いろんな人が見学に来たりします。そして、つばさ共同保育園では、保育実習やボランティアを希望する学生も受け入れています。5月、8月には、学校の休みの日を利用して、岡山県立大学、大阪キリスト教短期大学からそれぞれ1名ずつボランティアに来た学生がいました。彼女達は、学校の授業で習う以上に、実際の子どもの姿や大人との関わりを間近で観て、自分も直接子ども達と関わることの方が、何倍ものことを学べたと感想を語ってくれました。

先日も保育士資格修得の為に、和歌山信愛女子短期大学の学生が、20日間の保育実習に来ていました。彼女の実習日誌からは、日頃、学校で学んできた知識と、つばさ実習での体験が繋がることを実感していると共に、日々の保育は一筋縄ではいかないことが沢山あって、自分はどう思い考えるかを模索している姿が読み取れました。

今後、関西医療大学からも、21名の学生が5グループに分かれて、2日間ずつの保育実習を予定しています。将来、看護師や保健士として働くことを目指す学生に、少しでも子ども理解をしてほしいという大学からの要請でした。既に、9月末に第1グループの実習が終わりました。関西医療大学の実習は2日間しかないのですが、学生にとって、学びがあるのか少し不安でしたが、2日目にディスカッションしたところ、その不安は消えました。2日間の実習では、それぞれが1日ずつ違う年齢のクラスで生活したのですが、子ども達の姿は年齢によってずいぶん違うこと、同じ年齢でも月齢によって違いを感じとっていました。そして自分の話し方が通じる年齢と通じない年齢があることにも気付いたようです。些細なことだけど、近い将来の医療現場で働く若い看護師が子どものことを知っていたら、親にとっても安心できるのではないのでしょうか。そういう意味でも看護師を目指すひとが保育園に実習に来ることは、大きな意味があると思っています。

実習生やボランティアを受け入れることは、子ども達にとってもいろんな大人がいることを知るチャンスであると共に、職員にとっても、スキルアップできるチャンスでもあります。日々の子ども達と接する姿勢は勿論のこと、実習生への指導を記入する実習ノートに、何を描けばいいのか、職員も日々学び、鍛えられています。

（※ボランティアや実習生は、前もって面接をしてから受け入れをしています。）

## 半年の取り組みを振り返る中間総括を行いました。

毎月第4木曜日 pm6:30～8:30の2時間で全体職員会議を行っています。

9月と2月は半年を振り返る4時間の職員会議を行います。

9月22日の土曜日(祝日)4月から9月までの半年を振り返る中間総括を行いました。

事前に①カリキュラムを振り返って計画ど通りに進行しているか ②子ども個人の成長はどうか ③職員一人一人の仕事を振り返る を文章化して資料を作り協議します。

毎月の司会、進行は市原が行いますが、中間総括は村井、山本の二人に任せました。

以下の内容で協議を行いました。

中間総括 スケジュール 学習と協議

9:00～10:00 研修報告から

- ① 一森＝一時保育への認識の変化
- ② 吉尾＝子育て支援活動 つばさでの取り組みを考える
- ③ 仲嶺＝子どもの命を預かることへの自覚
- ④ 川田＝身近な食材を使って食育を育む取り組み

10:00～11:00

- ① 上野＝日本の子ども観、国連の勧告  
評価的な対応 学び思考：結果思考
- ② 高木＝発達のとらえ方
- ③ 上原＝障害のある保育 共感、自信をつけるとは？
- ④ 烏野＝自我の育ち支える保育と生活

11:00～13:00

個人の間総括

後半取り組むこととして ①～④ も実践しようと考えました。

①家庭育児支援 子育て困難家庭への支援を考える

- ・ホームページで悩み相談を開設してはどうか
- ・チラシで家庭育児支援を行っていることを知らせるようにしてはどうか
- ・園庭開放での保育士の声掛けも重要視する
- ・今まで平日に行っている子育て教室を父親参加可能な土曜日に取り組んではどうか

②食育に関すること

- ・検食の際には0歳児の子どものもどづまりを防止するために食材の大きさに注意する
- ・給食づくりの際、野菜の皮むきなど子どもに積極的に手伝いをさせる

③保育に関すること

- ・りすぐみで自分だけの空間を楽しめる場所を作る

④子ども観など北欧の子育てに関する学習をしていこう

- ・「学びの物語」の保育実践の本を読み合わせして子ども観を学習する

設計から携わる新築の園づくりから半年、まだ6ヶ月しか経っていないのに、子ども、保護者、職員と何年も一緒に過ごしている感覚。

4月2日の「入園を祝う会」で初めて出会う集団に緊張していたことは、はるか前のよう。先日、ある保護者から「どんな保育園か様子を見ていたつばさの人たちが来年はぜひつばさに入れたいので定員オーバーしていたら入れないのか聞いてほしいと頼まれた」別の保護者から「我が家にとってつばさは3つ目の保育所。でも一番良い。保育方針が安心できる。もっと早く作ってほしかった」という声。半年の短期間でこのような感想をもらう実績を作ったのは今のメンバー。

2003年4月にアトム共同保育園を開園したときは落ち着くまでに1年かかった。

9年前認可保育所準備に追われる日々と並行して起こった最大ピンチの2つのできごとでかなりの疲労が蓄積、3月30日アトム共同保育所閉所式を行い、31日は引っ越し、1日には入園式、あれだけの実務作業をよくやり切れたと振り返って思う。長年の目標、夢の実現に向けてと高ぶる気持ち、エネルギーがあったから乗り切れたのだと思う。スタートは切ったものの毎日の苦情対応に神経を使い果たしたのか、6月には足が動かない登園拒否状態となった。その当時と比較してつばさの開園はとてもスムーズだと感じる。

スムーズに進む要因は①180名のアトム1年目と80名のつばさ、少ない世帯数

②園の方針などアトムの知名度があり、期待されていた③保護者とのトラブル対応アトム共同保育園の体験が生かされた④全員担任のコンビネーションづくりに努力した結果だと思う。思ったこと、感じたことを言葉にするのは容易なことではない。ましてや新人は先輩の評価が気になるだろうし、先輩も同様、新人が自分のことをどのように思っているのか気になる。互いに腹の探り合いがあって当然だと思う。

しかし、4月からのグループ会議で、先輩に励まされながら違和感を表現しようと恐々ながら表現している新人職員、その後も各クラスで職員同士気持ちの伝えあいをしている姿をみて『やってる！やってる！』と私はわくわくしていた。

職員の中にはまだまだ気持ちを表現できていない人もいる。相手に批判したいことを飲み込んでいる人もいる。言わないで済む場合もあるのでそれぞれで判断していると思う。

今までにも繰り返して伝えてきたけど、相手に確かめないで勝手に相手の思いを推測してあたかも事実のように別の人に伝えることは控えよう。

保護者のことも同様、直接聞くことを怖がらずに気軽に会話すること、会話できるように心がけて欲しい。それを難しいというのは、言葉の使い方を知らない自分と自覚しているのか？下手なことを言ってトラブルに発展することを警戒しているからなのか？

各自、自分に聞いて欲しい。

後半に望むことは、今までの失敗を繰り返さない努力を具体的に自分の目標にしてほしい。

(この文章は中間総括の巻頭文に載せたものです。)

## ⑨ 中間総括 取組の感想 ⑨

前の保育園では総括がなかったので、初めてでとても緊張しましたが4月からの職員1人ひとりの気持ちがよく分かりました。また、自分の思ってる事も話せてよかったです。

そして後半もみんなで力を合わせて頑張っていきましょう。

川田幸子

初めての総括で私は司会でした。前日は総括全体のイメージを考えていました。いざ、始まると私がイメージしていた全体の流れよりも、つばさ職員皆のそれぞれ思いが多くあり、給食室は少し離れているので孤立感がありましたが、中間総括でこの半年間にあったつばさ全体の事が分かったと思います。

初めての司会に戸惑いながら、私自身の司会はまだまだだなと感じ、総括はあっという間に終わった感じがしました。職員全体のこの半年間の動きや思いが分かったことが、よかったです。

村井 康平

**半年間を振り返り、文章に残すことは難しいと思いましたが、ここで書き残すことは無理な目標を設定したり、体裁だけを整えたり、思ってもないことを書く必要がなかったので書き始めるとスラスラと書けました。そして涙あり、笑いありの4時間の総括会議。今まで働いてきた会社で様々な会議に出席した経験がありますが、こんなにまともな意見が飛び交い、またあたたかい会議は初めてでした。自慢のできる職場と仲間だと改めて感じ、その場に入れる自分がとても幸せでした。**

一森 すずえ

自分の気持ちを文章にまとめたり、人に自分の想いを言葉にして伝えるという事が、私の一番苦手な分野で、書かなきゃなと思いつつ、締め切り前日、ほとんど寝ずに仕上げた総括文章でした。仕上げながら、自分の気持ちを文章にまとめて残すとゆう事は、自分を振り返って見つめ直す事が出来る大切なものだと思いき、これからは、その都度、書き留めていこうと思いました。

中間総括を終えて、責任者の苦労や新人職員の葛藤など、みんなも知らないところで、しんどい思いをしながらも、乗り越えて頑張ってきた事を知り感動しました。

保育・給食・事務。みんなが子どもを一番に考え仕事をしている素晴らしい仲間達の中で育つ子ども達は、とても幸せだなあと、子どもを持つ一人の親として、そう思いました。私も、つばさの仲間であって、とても幸せです。みんなありがとう！感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ未熟者ですが、これからも、宜しくお願いします。

事務室 吉尾由紀枝

この半年の自分の思いについて、各自、B5用紙最低3枚書くことになり、職員の誰もが、「そんなけも書かれへん・・・」と言っていたのに、みんなそれぞれに書いていたことに驚いたし、文面から職員1人1人の人となりがよくわかる内容になっていて、2012年度後半もこのメンバーでやっていきたい！！と心も新たにできた中間総括でした。

会の前半は、それぞれが参加した研修会の報告を基に、学習会をしました。子どもの育ちには何が大切なのか、自分達は日頃から何を大切に思っているのか、もっと、もっと論理的に話しできる力をつけていきたいと思いました。この、つばさでも活かせることから、実践に移していきたいと思えます。

仲嶺 真弓



今、世界の中には二つの保育観があります。日本政府の子ども子育て新システムに表れている「準備期としての子ども観」と「それ自体が重要な意味を持つ人生の最初の段階」とみる保育観です。欧米の子ども観は前者から後者に転換しつつあります。合研で日本の水準の低さに驚き危機感を持つとともに、ずっと以前から後者の視点に立ち続けてきたアトム、つばさの保育の確かさに自信を持ちました。総括後、実践に生かし、より明確にしていこうと決意しました。「半年を振り返る」は、言葉に詰まり考えをまとめられませんでした。この半年頑張ってきた！という思いと、やりきれていない自分の不甲斐なさに情けない思いが交錯。日々流され自分の願いをしっかりと持っていなかったことに気づきました。新たな目標が見えてくるのが総括です。(上野由美子)

初めての中間総括は、とても印象に残るものとなりました。いったいどんな雰囲気でお話が進んでいくのだろうと、いろいろ考えながらも頭は不安と緊張でいっぱいでした。前半はとても勉強になることばかりで、これからの自分の保育をどう行っていくか改めて考える機会になったと思います。後半は、普段あまり話をすることのない先生たちの様々な気持ちを聞くことの出来た時間でした。1人ひとりが話す内容にきちんと向き合い職員全体で考えていく大切を感じました。つばさ共同保育園をより良い保育園にする為にもこの様な会議は必要で、私にとっても本当に大切な時間だったと思います。岡本華奈

4月からの半年間の出来事や1人1人の気持ちや思いを聞いて、自分の知らなかった事や、見えていなかった事が沢山あることを知りました。小窓をたどり壁にぶつかったりしても、誰かがいつも近くにいる、声をかけたり見守っていました。そんな雰囲気をつばさで働ける事を嬉しく感じた中間総括でした。  
三度辺理恵

つばさに来て約3週間。今回私は、(初)の総括会議に参加しました。資料には目を通したものの、どんな内容で、どういった話し合いになるのか？不安と恐怖やら腹が膨れ喉を通らず、寝も眠れず……。そしていざ始まった会議には驚かされることばかりでした。まず、縦社会にいた私にとって園長先生、年上の人、先輩は逆ってはいけないう人。でもみんなみんなと関係なく意見を言っていた事。自分の非も弱い部分も素直に認められる姿にも、林を会議で言える事にも本当に驚かされました。そんな姿を見て、自分もその一員になりたいと思ひ、(1)の(1)の(1)の中、自分の思いを聞いて頂きました。私にとって第一歩!!! 少いながらも... 自分なりに踏み出している!!と思ふた日となりました。  
栗山喜々美

中間総括の資料やみんなの発表を聞いて、つばさが大切にしていくことが少しわかった感じがしました。はじめての中間総括で緊張したけど、いろいろ勉強することができてよかったなと思いました。  
川崎理恵子

総括をするにあたり事前に資料を読み、会議では半年を振り返り思いを語った。それぞれの思いがよく分かった会議でした。新人は思いを語る事を半年職員会議など行ってきて、総括会議では思いを語る事で、半年前に比べると思いがよく分かり、振り返り自分見つけが出来つつあるなど感じました。中堅も何にぶつかりこれから何が大切か、また新たに課題も見えたと思いました。

研修報告ではそれぞれが報告を行い、夢を持つことの大事さ、事故を防ぐために、保育で何を大事にするかなど話、残り半年で大事にすべき事が見えたと思いました。

資料に書き残す事の大事さ、研修で何を学び生かしていくのか、思いを語る事で次へと繋げていく事が出来る会議だと、改めて大事だなと思った有意義な会議でした。

後半ケガも無く、あせらず1つ1つ出来る事から行っていききたいと思いました。 <川中三和>

初めての総括会議だったので、人前で話すことが苦手な私にとって、何日も前から何を話したら良いのか？そわそわドキドキしていました。当日は、もっともっと緊張していました。

いよいよ始まり、初めの2時間は、研修報告を聞き、自分自身の保育を見直し、考え直す良い機会になり良い勉強になりました。もっと経験し勉強をしないといけないなと思いました。そして、みんなで素敵につばさ共同保育園を作っていきたいと感じました。後の2時間では、みんなの総括を読んだり、話を聞いている中で、半年間、自分自身しか見えていなかった事に反省しました。もっと自分の事以外にも目を向け、一步を踏み出したいと思いました。また、色々な声が聴けて自分自身の半年間を振り返り、今後は、さまざまな事に願いを持って行動し、想いを上手に表現する事を心掛けます。

終わると、やっと終わった！後半も頑張ろう!!皆様ありがとう!!!という気持ちになりました。(宮下 絢)

今回の総括では、自分の半年間を他の職員に話す事で、振り返る事が出来た。初めて「保育士」という仕事をする中で、大変な事もたくさんありましたが、改めて、周りの人達に支えられて乗り越えてこられたんだと実感しました。この半年は自分でいっしょにいっしょでしたが、後半はもっと余裕を持って、今度は少しでも自分が支えられたいと思います。また、研修の報告を通して自分たちの保育を見つめ直す事が出来たので、今後に活かしたいと思います。 高木 雅

(谷野則文) 中間総括はこの半年を振り返り後半にどう生かすか、という事が目的です。4月から共に仲間になった新しい職員の発言を聞くと、改めてその人となりが分かった感じがします。それに比べて自分の新人の頃を振り返るとまるでできていなかったことばかりが思い出されますね。子どもの成長は早いですが、大人だって成長します。「長い目で付き合っていこう」という事を自分の体験の中から肝に銘じました。他に私が印象に残った事は「保育中の事故を防ぐポイントは職員同士の危機意識の相互確認にある!」「ヒトの成長にとって本当に大切な事は何か?その上で乳幼児期に育まれるべき大切な事は何だろう?私たちが目指すモノはどこ?」そんな事を仲間確認しました。ごまかしのない小さなものが、ごまかしのない大きなものをいつか作り出す事を夢見て。



先月のつばさで、合研の感想を書いて、人に伝えること、自分の思いをうまく伝えられなかったことについて書いたのが。今回の総括会議で、合研の再現をする時間ももらい、改めて自分の言った発言では相手に伝わらなかったなと、思い返すことができた。また具体的に話すことで自分の言いたかったことがはっきりしました。そして発言できたのは、安心感もあったのだなと、思いました。自分の話、思いを聞いてくれる、知ろうとしてくれる、そして知ってくれる安心感です。この経験を活かし、次につなげられるよう努力していきたいと思っ  
経験けいといとわからない自分。なのに、いろんなことを経験することを遠ざけていき自分もして、他の人の話を聞きながら、もっとしっかりしないと！と思っ  
上原 4月号

前半の研修会報告は危機管理や保育内容を全員で話できる強会で、これからは生かせることがたくさんあります。自分の番は一番最後で、うまくまとめて伝えられるか少し緊張してこの、まさかの時間切れです。その後時間がもらえにもの良くも悪くも緊張がとけて、自分で何を言ってるのかわからなくなり反省でした。つばさで力を出して、まだ半年しかたっていないけど、すごく暑い半年でそれを振り返るといふ総括は色々な思いで胸が一杯になりました。色々な話をきくなかで、またこれからどうしていかにつなげることができそうです。  
鳥野 佳東

○ 今回の総括では、司会をやらせてもらい、うまく流れを切らず進めていたり、どこにポイントをおいて展開していくのかなど、進めていく上で自分の苦しみ所など知れやすかったです。

私、みんなの総括を聴いたり、会議での話を聞く事で、自分の事についていっしょに思っている自分にと、では、知らなかった事を知れたり、みんながどんな思いでこの半年仕事してきたのか知る事ができたり、自分だけじゃなかった人や、とか、自分もが人ほらなと思える事もあり、とても刺激になりました。来年度、私がかんぽうと新たに思えた総括です。  
(山本知輝)

印象に残っているのは、発達 = 子どもの願いを知る というフレーズでした。元よりある発達の基準が到達点だと思っ、そこに子どもを合わせるのではなく、1人1人の子どもの願いを知り、個人の理解を深める事が、子どもにとって安心して育っていく環境だということもあらためて感じました。子育ての何に重点を置  
くかで保育の仕方変わる。私は子どもが安心して、自分を表現していいんやと思える、自分の存在が大切にされていると感じられる保育をしたいと思っ、その為には、私自身が何が大切で、どうしたいかを、つきつめて考える必要があります。大変な時もあるけれど、自分の出来る事をしていこう。と思っ総括では(大野)